

プレス発表資料

平成25年5月30日
独立行政法人 防災科学技術研究所

第4回防災コンテストを開催

～マップとドラマで災害に強い協働型社会をつくる～

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、「第4回e防災マップコンテスト」及び「第4回防災ラジオドラマコンテスト」を開催し、参加グループの募集を6月から開始します。（締切：11月30日）

本コンテストは、防災活動に取り組みたい方ならどなたでも参加可能です。eコミマップ（別紙資料3参照）の活用やドラマづくりを通じて、コンテスト参加者が地域関係者をはじめ様々な方と意見交換しながら、災害時に地域で起こる問題を想定し、対応策を検討し、対応策を実行できる協力体制をつくることで、災害に強い協働型社会の構築を目指します。

コンテスト参加申込み及び詳細については、下記URLの特設サイトをご参照ください。ご参加・ご応募、お待ちしております。

【e防災マップ】 <http://emap2013.bosai-contest.jp/>

【防災ラジオドラマ】 <http://drama2013.bosai-contest.jp/>

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会

【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所
社会防災システム研究領域
リスク研究ユニット
臼田、須永
電話：029-863-7553

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
アウトリーチグループ
三好、大石
電話：029-863-7783
FAX：029-851-1622

第4回防災コンテストを開催 ～マップとドラマで災害に強い協働型社会をつくる～

1. はじめに

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、「第4回 e 防災マップコンテスト」及び「第4回防災ラジオドラマコンテスト」を開催し、参加グループの募集を6月から開始します。（締切：11月30日）

本コンテストは、防災活動に取り組みたい方ならどなたでも参加可能です。e コミマップ（別紙資料3参照）の活用やドラマづくりを通じて、コンテスト参加グループが地域関係者をはじめ様々な方と意見交換しながら、災害時に地域で起こる問題を想定し、対応策を検討し、対応策を実行できる協力体制をつくることで、災害に強い協働型社会の構築を目指します。

第1回から第3回までの防災コンテストでは、町内会や自主防災組織のみならず、PTAや福祉団体、民間事業者、中学・高校の部活動、各種市民活動団体、数名の地域の仲間や友人などで結成したグループなど、さまざまなグループにご参加いただきました。「東日本大震災の対応に実際に活かされた」と参加者からコメントが寄せられており、全国の皆様に本コンテストを通じて災害に強い協働型社会を構築していただきたいと考えております。（別紙資料2参照）

コンテスト参加申込み及び詳細については、下記URLの特設サイトをご参照ください。ご参加・ご応募、お待ちしております。

- ◆ e 防災マップ <http://emap2013.bosai-contest.jp/>
- ◆ 防災ラジオドラマ <http://drama2013.bosai-contest.jp/>

2. 開催概要（両コンテスト共通）

◆主催	独立行政法人 防災科学技術研究所
◆後援	内閣府（申請中）、文部科学省
◆応募締め切り	2013年（平成25年）11月30日（土）まで
◆対象者	地域の防災力を高めたいと考えている方はどなたでも参加できます。ただし、グループでの参加が必要です。既成のグループだけでなく、コンテストのために新たに結成したグループや複数のグループの共同でも参加できます。
◆審査結果発表	2014年（平成26年）1月下旬から2月上旬を予定
◆表彰式	2014年（平成26年）2月22日（土）に東京国際フォーラムにて、シンポジウムと合わせて開催予定
◆特設サイト	◆ e 防災マップ http://emap2013.bosai-contest.jp/ ◆ 防災ラジオドラマ http://drama2013.bosai-contest.jp/

3. e 防災マップコンテスト詳細

e防災マップコンテストでは、インターネットを使ったマップ作成システム「eコミマップ（別紙資料3参照）」で作成した、地域固有の防災マップを応募します。本コンテストでは、出来上がったマップ自体の評価だけではなく、マップ作りを通じて、又はマップを活用して、現状の防災体制の見直しや災害時の対応体制の再構築など、地域のさまざまな協力が見直されたり新たに形成されたりする活動の内容、すなわち「災害に強い協働型の社会」づくりの活動を評価いたします。

◆応募締め切り	2013年(平成25年)11月30日(土)
◆審査	防災に関わる学識経験者等による審査委員会にて厳正な審査を行い決定いたします。
◆賞	最優秀賞1点、優秀賞5点を予定
◆作品公開	受賞作品はインターネットで公開いたします
◆表彰式および記念シンポジウム	2014年(平成26年)2月22日、東京国際フォーラム(JR有楽町駅徒歩1分)にて開催予定です。ドラマコンテスト表彰式と合同実施です。詳細は、決まり次第、コンテストの特設サイトよりご案内いたします。
◆特設サイト	http://emap2013.bosai-contest.jp/

4. 地域発・防災ラジオドラマコンテスト詳細

防災ラジオドラマコンテストでは、さまざまな主体が協働して各種自然災害に対する地域の防災力を高める取り組みや、災害時の発生時に地域の多様な主体が協力・連携して災害に立ち向かうことをテーマとする防災ラジオドラマ（音声または脚本）を募集いたします。e防災マップと同様、出来上がったドラマそのものだけではなく、ドラマ作りを通じて、又はドラマを活用して、現状の防災体制の見直しや災害時の対応体制の再構築など、地域のさまざまな協力が見直されたり新たに形成されたりする活動の内容、すなわち「災害に強い協働型の社会」づくりの活動を評価いたします。

作品はドラマ部門（音声による応募）と脚本部門（脚本・原稿による応募）から選択してご応募いただきます。作品応募時に部門の選択は必要ですが、参加申請時は選択する必要はございません。まずは参加申請していただき、作品応募時に部門の選択を作品完成の進捗状況などを鑑みて決定していただくことをお勧めいたします。

◆応募締め切り	2013年(平成25年)11月30日(土)
◆審査	防災に関わる学識経験者等による審査委員会にて厳正な審査を行い決定いたします。
◆賞	最優秀賞1点、優秀賞10点（ドラマ部門5点、脚本部門5点）を予定。
◆作品公開	受賞作品は、インターネットで公開いたします。
◆表彰式および記念シンポジウム	2014年(平成26年)2月22日、東京国際フォーラム(JR有楽町駅徒歩1分)にて開催予定です。e防災マップコンテスト表彰式と合同実施です。詳細は、決まり次第、コンテストの特設サイトよりご案内いたします。
◆特設サイト	http://drama2013.bosai-contest.jp/

5. 両コンテストの研究的位置づけ

本コンテストは、リスク情報の利活用に関する研究の一環として行う、社会的な実験となります。コンテストを通じて、「住民が主体となって、地域の多様な主体が協働して、地域の災害をより具体的に理解し、社会資源や主体間の協働関係を活かした災害対応や防災活動を検討し、災害に強い地域を構築する」という、マップとドラマを活用した地域協働による社会づくりのリスクコミュニケーション手法と、その社会づくりの活動を支えるシステムの有効性を検証します。

【マップ例】We ♥ Sengen(茨城県つくば市千現地区)

We ♥ Sengen は、2010 年夏、千現地区 1 丁目の自治会長(当時)と地元小学生、そのお母さんで結成されたグループです。自治会長が個人の立場で地元の小学生に「夏休みの自由課題を一緒にやろう」と声をかけ、取り組みがスタートいたしました。

地域の災害時の対応を調べた結果、避難所に備蓄が無いことが明らかとなり、地元事業所や商店等に「災害時にどのような協力ができるのか?」というアンケートを実施しました。「We ♥ Sengen マップ」はそのアンケート結果を整理したマップです。災害時における対応と地域協働の関係が記されたています。作ったマップは、協力いただいた事業所・商店の広告とともに地域に配布しました。

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が発災、つくば市千現地区では断水や停電が発生、交通が麻痺、つくばで働いている方や観光客が帰宅困難、千現の避難所(二宮小学校)には駅から近いため、住民だけでなく大勢の帰宅困難者が集まってきました。発災前に築いた協力体制に基づき、地元事業者や商店などから水や食料、支援手伝いの方々などが集まりました。

We ♥ Sengen メンバーは、当時の様子について「作成したマップを地域に配ることで、地域が対応のシミュレーションをイメージできていた」、「パニックは全然なかった。心の準備ができていて心強かった」、「マップづくりの活動が実際に効果として出ていた」と、地元コミュニティラジオ(ラヂオつくば)のインタビューにて、マップを使った協働社会づくりの効果についてお答えいただきました。

We ♥ Sengenマップ(協力関係マップ)



	 協力関係法人
	名称: (株)ニチイ学館ニチイケアセンター
	協力関係:できた
	協力内容: 人的協力(担架による負傷者搬送、避難所運営)、物的協力(調理器具、衣類・身の回り品、応急に必要物資、寝具、移動入浴車)、スキル(看護・介護)、避難場所

【ドラマ例】吾妻小学校(茨城県つくば市)

2011年3月11日、つくば市立吾妻小学校では学校職員とPTA役員が集まって、防災ラジオドラマの収録を行っていました。つくば市に大きな被害が生じる恐れのある直下型の大地震を想定して、震災直後の安否確認から児童の保護者への引き渡しまで、ほぼ1年をかけて関係者で話し合ってきた結果をシナリオにして、ラジオドラマを作成していました。

学校の放送室で無事に3話分のドラマの音声収録を終え、関係者全員が解散した約1時間後に、東日本大震災が発生し震度6弱の揺れがつくば市を見舞いました。関係者は再び学校に集合し、あらかじめ想定していたシナリオに沿った形で、児童の引き渡しを行い、地域の公設避難所となる学校の受け入れ準備に取り掛かりました。

吾妻小学校はつくば市の玄関にあたるつくば駅に最も近いこともあり、最終的には600名を超す帰宅困難者、地域住民が集まり、1夜を過ごしました。この間、教職員の方々、PTAの方々の息の合ったチームワークと、献身的な活動がありました。これも事前に地域の防災シナリオを作成していた効果が表れたといえます。

翌日には臨時の交通機関が動き始めたので、多くの避難者は帰宅できましたが、後日、避難所に収容された方々から数多くの感謝の手紙が学校に寄せられました。



e コミュニティ・プラットフォームについて

インターネットを活用した防災マップを作成するウェブアプリケーションで、独立行政法人防災科学技術研究所が平成20年度より開発を行っています。ホームページ作成や情報発信・共有が容易に行えるグループウェア「エコミグループウェア」と、地図作成システム「エコミマップ」で構成されています。特にエコミマップは、国際標準の地図データのオープンデータの方式（分散相互運用環境）に対応しており、インターネット上にあるオープンデータとして公開された様々な地図データを一つの画面に重ねて表示することができ、それらの地図を下敷きにマウスクリックで簡単に自分達の情報を登録した上で、それを印刷して話し合い等への活用も容易に行える機能を備えています。

防災科学技術研究所では、平成22年度より防災コンテストを開催（後援：内閣府、文部科学省）しており、これらのシステムを活用したe防災マップおよび防災ラジオドラマの作成手法の全国展開および社会還元を行っています。コンテストにおけるエコミマップの利用事例として、第2回防災コンテスト（e防災マップコンテスト）の最優秀賞（愛知県名古屋市南区の星崎学区連絡協議会）を紹介します。こちらのマップは、台風や津波による水害リスクを自治体のハザードマップを表示させて災害特性を理解し、地域の避難施設までの推奨ルートを設定するとともに、高い建物への避難を推奨するなど、実践的な対策マップを作成しています。防災コンテストの詳細は公式サイト（<http://bosai-contest.jp>）をご覧ください。



応募された e 防災マップ（星崎学区防災マップ）



e 防災マップの作成の様子（星崎学区連絡協議会提供）